めぐみイエス・キリスト教会

2025年5月18日(日)第二主日礼拝
午前10時より
週報「通算第759号」

2025年標題聖句
イザヤ書40章30節～31節
《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れない。》

第一礼拝(教会にて)　毎週日曜日　午前10時～11時
第二礼拝※中止
聖書の学びと祈り会　毎週水曜日　午後6時～(各家庭にて)

牧師　鈴　木　竜　実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】
【賛　美　Ⅰ】新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」p. 402
【交　読　文】№54　ヨハネの福音書14章（抜粋）　p. 922
【賛　美　Ⅱ】新聖歌208「イエスは愛で満たす」　p. 314
【使徒信条・主の祈り】
【前回説教】
【賛　美　Ⅲ】オリジナル曲「ラザロ」
【聖書朗読】ルカの福音書9章28節～36節（p. 132上段）
【礼拝説教】《主イエスの栄光（ヘルモン山にて》
【聖　餐　式】
【賛　美　Ⅳ】新聖歌165「栄光イエスにあれ」　p. 235
【平和祈り】
【頌　　栄】新聖歌63「父・御子・御霊の」　p. 85
【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書9章28節～36節)

9:28 これらのことを教えてから八日ほどして、イエスはペテロとヨハネとヤコブを連れて、祈るために山に登られた。
9:29 祈っておられると、その御顔の様子が変わり、その衣は白く光り輝いた。
9:30 そして、見よ、二人の人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤで、
9:31 栄光のうちに現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について、話していたのであった。
9:32 ペテロと仲間たちは眠くてたまらなかったが、はっきり目が覚めると、イエスの栄光と、イエスと一緒に立っている二人の人が見えた。
9:33 この二人がイエスと別れようとしたとき、ペテロがイエスに言っ

た。「先生。私たちがここにいることはすばらしいことです。幕屋を三つ造りましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、一つはエリヤのために。」ペテロは自分の言っていることが分かっていなかった。
9:34 ペテロがこう言っているうちに、雲がわき起こって彼らをおおった。彼らが雲の中に入ると、弟子たちは恐ろしくなった。
9:35 すると雲の中から言う声がした。「これはわたしの選んだ子。彼の言うことを聞け。」
9:36 この声がしたとき、そこに見えたのはイエスだけであった。弟子たちは沈黙を守り、当時は自分たちの見たことをいっさい、だれにも話さなかった。

●ポイント1. 父なる神様の最初の言葉
※マタイの福音書3章16節～17節「ヨハネの洗礼」 (新約p.4下段)
3:16 イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降って来られるのをご覧になった。
3:17 そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」
●ポイント2. シモン・ペテロの証しから
※第Ⅱペテロ1章16節～18節「聖なる山にて」 (新約p.474上段)
1:16 私たちはあなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨を知らせましたが、それは、巧みな作り話によったのではありません。私たちは、キリストの威光の目撃者として伝えたのです。
1:17 この方が父なる神から誉れと栄光を受けられたとき、厳かな栄光の中から、このような御声がありました。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」
1:18 私たちは聖なる山で主とともにいたので、天からかかったこの御声を自分で聞きました。

◎先週のメッセージ【主イエスに従う人生とは？】

《「だれでも私について来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、私に従って来なさい。」と主イエスは言われました。

十字架とは、ローマ帝国反逆罪の者が、処せられる最も残酷な刑のことです。しかも、処刑される者は、死刑場まで、自分の十字架を担がなければならないのです。弟子たちは、この時、「殉教」することを主が言われたと、思ったようです。

ところで、主イエスの言われた真意は何でしょうか。それは、自己否定のことです。しかも、それを毎日行ない、主に従って行くことを意味しています。自己否定とは、主の恵みに委ねた生き方のことです。つまり自己中心的な生き方ではなく、主の為に、神様を中心として生きて行くと言うことです。クリスチャンが本当に生き生きとした「生き方」が出来る為には、日々、十字架を背負わなければならないのです。

もちろん、私たちの力だけでは、到底出来ないことです。助け主、聖霊様の力をいただかなければ、結局は疲れ果ててしまいます。

「人は、たとえ全世界を手に入れても自分自身を失ない損じたら、何の益があるでしょうか。」

この主イエスの言葉こそ、イエズス会の創始者であるイグナチオ・ロヨラが、同室のフランシスコ・ザビエルを改心させ、救いに導いたみ言葉なのです。また、主イエスは、このようにも言われました。

「だれも二人の主人に仕えることはできません。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。」

私たちは、どちらかに仕えることになります。主イエスに従わない者は、この世の富、すなわち「空中を支配する権力者」に仕えていることになります。「神の子ども」とされた私たちに与えられた物はすべて、神様からの恵みです。主に従う人生こそが最大の成功なのです。》

◎お知らせ

※次回は、2025年5月25日午前10時より、鵜飼潤先生をお招きして、特別伝道集会を行ないます。礼拝終了後、愛餐会を行ないます。